



和敬会だより

第149号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野呉山病院
富山市北代5200
<https://www.wakeikai.com>

発行人
理事長 谷野 亮一郎



発行日 令和6年11月25日



ごさんフェスティバル「抽選会」で的一幕

医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院



職員募集専用



こちらのQRコードから
webサイトもどうぞ。



和敬会マスコットキャラクター
ワケちゃん

『叫び』

理事長・院長 谷野 亮一郎

我が国はこの先も大丈夫だろうか。どうしようもない不安そして焦燥感に襲われる今日この頃。本当に、我が国日本はこの先も大丈夫でしょうか？ 私には3人の子供がいますが、自分、子供そして孫の代まで思いを馳せると、時々、ムククの『叫び』みたいな顔をしたくなるのです。

私は、日々の臨床で、生活保護の患者さんに「いつか税金払えるようになるうぜ！」みたいなこと言ったりします。「支えられる側」から「支える側」に「リカバリー」した分かりやすい目安であり、患者さんにとって目標となり

得ると考えるからです。しかし、最近、この国に税金を納めるだけの価値というか、魅力という、なんだろう、要は、我々が納めた税金を、我々のために使ってくれているのだろうかという懸念、疑念が増すばかりです。だからと言って、もちろん治療の手を緩めるわけではないのですが。

先の都知事選に出馬された石丸伸二さんが、「政治屋」を「政治のための政治をする、党利党略に勤しむ、自分第一、これを言っているもの、やっているもの」と定義されておられましたが、私の「政治屋」の定義は「日本国民のために税金を使ってくれない者」です。ちなみに私、石丸さんのこと嫌いじゃないです。私がこれまで出会ってきた人間コレクションの中に、多分、石丸さんはこのタイプと似ているのかな、と思う人がいます。私、その人のこと嫌いじゃないので、多分、石丸さんともうまくやれるんじゃないかなと（笑）ただ、政治「家」としての石丸さんは私の中では未知数ですが。

ということで、私が『叫び』みたいな顔をしたくなる理由その1は「政治家の劣化」です。

その2として私が危惧するのは、厚生労働省ならぬ「強制労働省」と揶揄されるがごとく、我が国のために働く「政治家」以外の人たちの疲弊です。政治家の劣化と相まって、我が国は内から瓦解しないだろうか。職場不適応を起こした患者さんの話を聞いていて、確かに男尊女卑、パワハラ等各種ハラメントなんかまかり通っている、一言で言うならば「古い」職場が存在します。そしてそれは公的な組織でより目につくような気がするのです。公的な組織ほど変わるのが難しいのかしら。その4までであるのですが、紙面の都合上この辺で。

我々にできることは？ やはり、目の前の患者さんが心の健康を取り戻すためのお手伝いをすること、そうしてこの国の担い手を支えること。



ごさんフェスティバルを開催しました

毎年恒例の「ごさんフェスティバル」を10月4日・5日に開催しました。

昼食時のデザート提供は、患者さまからご好評の声をたくさん頂きました。また、法被を着た職員がデイケアや病棟での抽選会を賑やかに盛り上げ、患者さまも楽しんでおられました。

そして初の試みとして、お菓子やラムネ、パン、手作り品などの販売会を、やすらぎホールで行いました。当院の患者家族会やワークハウス連帯が出店したのに加え、院外からはフレンドリー会さまが出店されました。購入したものをその場で楽しめるよう、会場には飲食スペースを設けました。



デイケア・外来・入院それぞれの患者さまが来場され、お買い物を楽しんでおられました。

まだ小規模ではありますが、地域住民の方や患者さまとの交流の場を設けることができました。コロナ禍以前のように皆様が交流できる「ごさんフェスティバル」が早く開催できることを願っています。

ごさんフェスティバル実行委員会



宮部さん おつかれ様でした

先日定年退職を迎えた宮部センター長の送別会を開催しました。参加者から送られた餞(はなむけ)の言葉で、多職種といかによい関係を築かれ、比類ない功績を残されたかあらためて実感しました。

センター長に就任する前の宮部さんは呉山病院に在籍し、当時「社会的入院者」と言われた入院患者の退院促進に向けて尽力し、当時の谷野亮爾院長(現会長)と共に「あすなる会」という会を立ち上げ、多くの入院患者を地域生活に繋げてきました。その成果は全国でも先駆的な活動として取り上げられ、多忙をおして全国へ講演行脚されていたのを憶えています。これらの活動は、和敬会「基本方針」にある「人生の回復を目指して」の礎ともいえ、いかに重要な役割を果たしてこられたか伺いしれます。



宮部さんが取り組んでこられたことを我々が受け継ぎ発展させ、患者さまが「希望にみちた人生」を送れるようリハビリを支えていくことが、宮部さんへの感謝とお礼になると思っています。本当に長い間、ありがとうございました。 リハビリテーション部長 丸本 薫

平成13年4月に「脳と心の総合健康センター」が開設し、宮部さんと共に病院からセンターへ異動となり、2年間を共にしました。医療機関のPSW(精神保健福祉士)から福祉施設のPSWへの変化に戸惑いましたが、「仕事場所が変わってもPSWが取り組むことは一緒。当事者の生活ニーズを中心に、より深く関わられるようになれるね。」と励まされ、新事業に取り組みました。その後自分は病院勤務に戻りましたが、障害者支援制度の大変革や利用者ニーズの変化に合わせセンターも進化し、和敬会の地域サポートシステムが今日の形となったのも、宮部さんの尽力のおかげだと思います。

また、県や市の自立支援協議会委員や日本精神保健福祉士協会の副会長として厚生労働省の会議に参加する等、精神障害者の誰もが地域で暮らせる環境作りに尽力されました。厚生労働大臣表彰受賞は、当事者ニーズを受けとめるチーム支援体制を整えた長年の活動が評価されたものと感じ入りました。退職後も、ますますお忙しい日々を過ごされることと思いますが、お体のケアもしながらのご活躍をお祈りいたします。お疲れさまでした。 生活支援センター・生活訓練センター長 浜守大樹



デイケアのぞみで「ハンドフルート演奏会」を開催しました。

ハンドフルート奏者としてご活躍されている野中健二様をお招きし、8月29日に演奏会を開催しました。手笛、口笛、指笛を織り交ぜながら、「熱き心に」「異邦人」など、皆様お馴染みの6曲を演奏いただきました。曲に交えて本物そっくりの鳥の鳴き声を指笛で披露されると大きな歓声上がるなど、大変盛り上がりしました。

参加者からは、「ハンドフルートを初めて聞いて良かった」「音色が心地よかった」「自分もやってみようかな」などの感想が聞かれ、好評でした。初めて耳にするハンドフルートの美しい音色に皆でじっくりと聴き入り、特別なひとときを過ごしました。



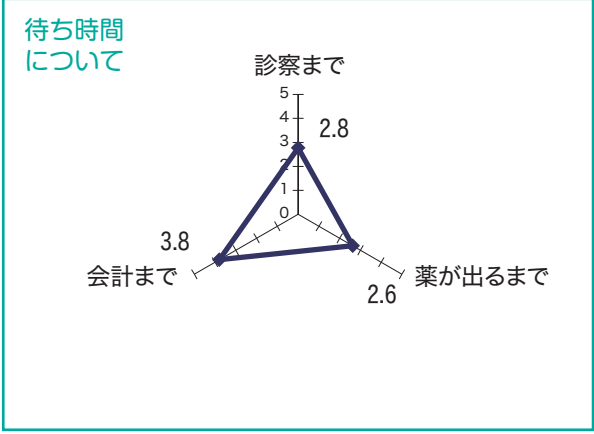
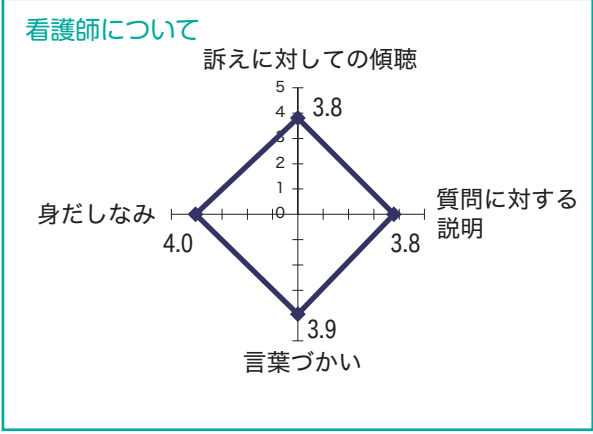
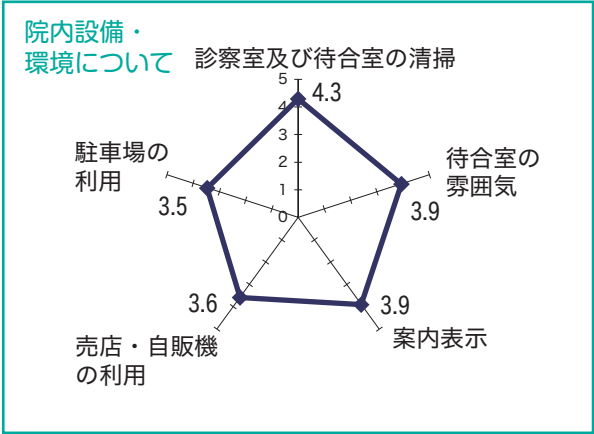
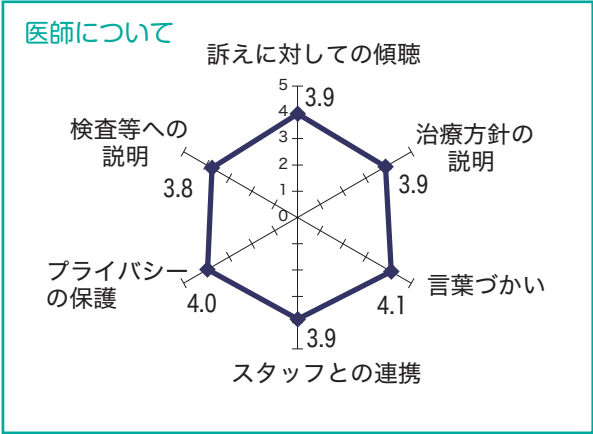
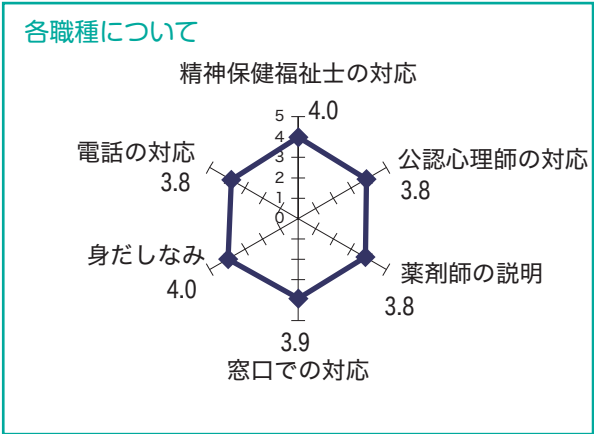
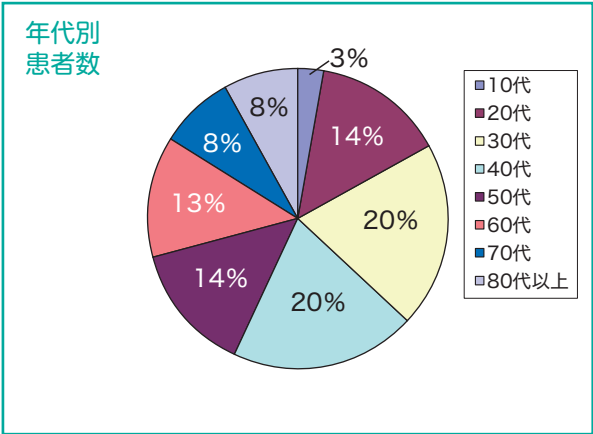
患者満足度調査報告

実施期間 令和6年7月16日~20日

皆様から頂きました貴重なご意見を参考に、安心して満足いただける病院づくりを目指し努力致します。

レーダーチャートの数値は5段階評価の平均値です

通院患者さま 287名



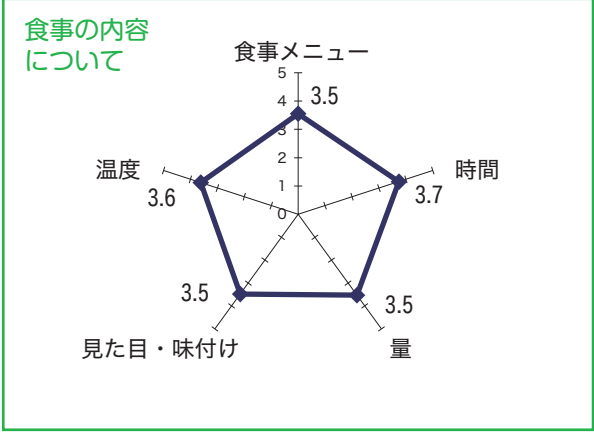
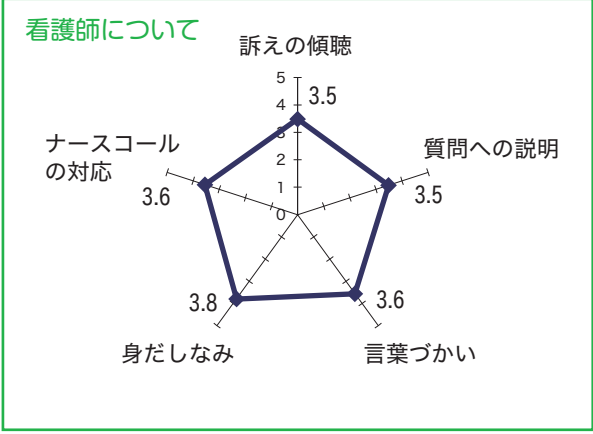
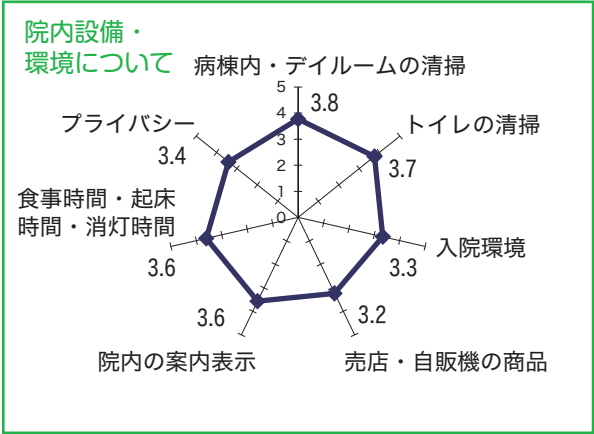
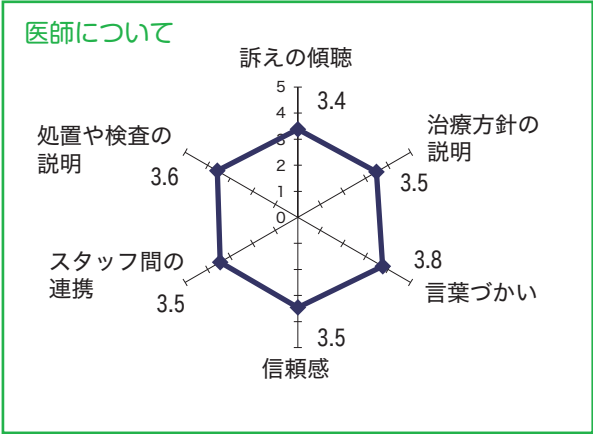
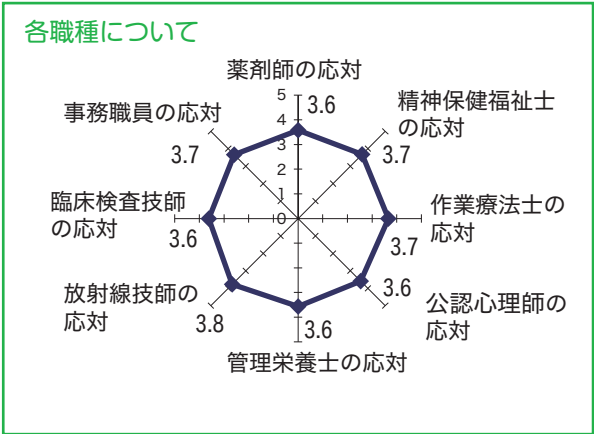
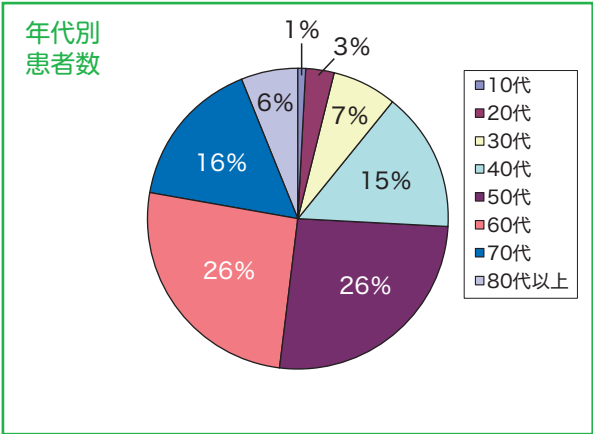
患者満足度調査報告

実施期間 令和6年7月16日~20日

皆様から頂きました貴重なご意見を参考に、安心して満足いただける病院づくりを目指し努力致します。

レーダーチャートの数値は5段階評価の平均値です

入院患者さま 177名



生活訓練センターの行事をご紹介します

出前講座「成年後見人制度」について

8月25日(日)に「権利擁護センター ぱあと なあ」の松尾祐子先生をお招きし、成年後見制度についての出前講座を開催しました。

講座では制度の仕組みや後見人等ができること、制度の利用方法などをわかりやすく教えて頂きました。皆さん真剣にメモをとり「後見人はどれほどの頻度で会いに来てくれるか」など積極的に質問する様子も見られました。「このような制度があるとわかって安心した」「少し難しかったが、話が聞けてよかった」と感想が寄せられ、専門的なお話を聞ける貴重な経験となりました。



四季防災館へ行ってきました

10月13日(日)に福祉バスを利用してますのすしミュージアムと四季防災館へ行ってきました。

ますのすしミュージアムで富山の海の幸・山の幸を味わったあと、四季防災館で自然災害の歴史とその克服に向けた先人たちの努力について学び、実際に地震・消火体験をしてきました。

地震体験では過去に起きた3つの大地震を再現した揺れを体験。同じ震度でも揺れ方が大きく異なり、怖さを実感しました。



消火体験では、説明を受けながら上手に消火器の使用ができていました。参加者からは「勉強になりました」「地震や火事の怖さを知りました」と感想が寄せられ、防災について学べる貴重な経験となりました。



法人の動き

月	日	事 項
8	5	富山市保健所立入検査
9	2	認知症疾患医療センター医療連携協議会
9	11	職員総会
9	24	防火訓練
10	4・5	ござんフェスティバル
10	18・19	谷野医院デイケア祭
10	23	衆議院議員選挙・富山県知事選挙 不在者投票
10	31	医療安全相互ラウンド

紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

コロナ対策で縮小開催が続いた「ござんフェスティバル」が、久しぶりに病棟外での催しをおこないました。コロナ感染症はなくなりますが、患者さまが喜ぶ顔を見ることができ、実行委員の頑張りが報われたと感じます。